

わが家の「髪型騒動」

'Hair style trouble' in our family

田村 美都子

TAMURA Mitsuko

編み込みとの出会い

ガーナ人の夫との間に子どもが3人、うち2人は娘です。3人とも髪のカールが緩いので、いつも適当にとかして結んでいました。私自身が小さいころからショートカットで髪をいじる習慣がなく、生来、不器用なこともあり、娘の髪型について気にしたことはありませんでした。夫がときどき髪をとかしてワセリンを塗ると、とてもきれいなカールが出るので、感心していましたが、自分では結ぶ以外に何かしようと思ったこともありませんでした。

そんな私が2015年からアフリカンキッズクラブに参加するようになって、ミックスの女の子たちがとってもかわいい編み込みをしていて、それをお母さんたちがやっていることに衝撃を受けました。上の娘が親に似ず、おしゃれも髪いじりも大好きなので、中学2年生のときに器用なママたちに教わって、当時、小学1年生の妹の髪を毛を編んでくれるようになりました。上の娘も私に「やって」といいますが、とてもできません。あるときアフリカンキッズクラブのイベントで上手なママに前半分だけ3本ほど編み込みをいれてもらい、編み込みデビューをして大喜びしていました。

「校則」の壁

ところがイベントから帰宅後、娘は「学校で先生に怒られる」と急に心配しはじめました。「(編み込みを)はずそうかな」というので、「アフリカミックスの子にとっては普通の髪型なんだから、堂々と学校に行くべき」と話しました。それでも心配するので、生徒手帳にある「異装届」なる届けを出しました。

翌朝、娘を学校に行かせ、自分も出勤したところ、娘の担任の先生から電話がかかって来ました。先生曰く、「髪型ですが、異装届もいただきましたが、生徒指導の先生とも相談し、やはり学校生活にふさわしくないので、ほどかしてもいいですか」とのこと。

義務教育現場の偏狭さに対する怒りがわき起こってききましたが、いかんせん満員の通勤電車の中。ぐっと

こらえて、「本人は納得しているんですか」と聞いたら、そうだというので、「本人が納得してるなら、ほどかせてください。明日、判断を下した先生にお話をおうかがいしたいので、日程を空けてほしいとお伝えください」と言って電話を切りました。

「発表会」と一緒にするか

翌日、学校では担任と生徒指導の先生が部屋を用意して待っていました。時間を取っていただいたことにお礼を述べてから、「娘が納得していたからいいけれども、ほどかせるという結論を下したことは非常に残念。どのような経緯でそのような判断に至ったのか説明して欲しい」とお願いしました。生徒指導の先生からは、以下のような説明がありました。

- ・このようなケースははじめてだったので、間違った判断をしてはいけないと思い、近隣小中学校の「ワールドクラス」(日本語クラス)にアフリカンヘアの子がいるかどうか、いる場合どのように対応しているかを確認したが、いなかった。

- ・10年ほど前から「ストリート系ダンスの発表会用」と称した派手な編み込みをして登校する子が増えトラブルになったので、現在は「三つ編みはOK、編み込みはNG」としている。編み込みも何本までならOKとすると混乱するので、一律にNGとしている。

私は、「近隣の学校にリサーチをかけるなど、判断にあたって一定の努力をしてもらったことには感謝する。しかし、文化的な背景があるものを『ダンスの発表会』と同列に扱い『かつてトラブルになったから』と一律に禁止するのはおかしい。教育現場でやるべきことは、なぜ彼女がそのような髪型をしているのかということを教えることではないのか」と訴えました。

私たちの住むエリアは外国人家庭が多く、近隣のほとんどの小中学校に「ワールドクラス」が併設されています。それにもかかわらず、学校現場がこの程度の多様性すら受け入れられなければ、相互理解は進みません。今後、宗教的な背景から、スカーフ着用の子た

たむら みつこ： AJF 会員。1998年にガーナ国籍の男性と結婚。現在、小・中・高校生の3児の母。千葉県市川市在住。2015年3月よりアフリカンキッズクラブの活動に参加し、同年4月から運営メンバー。

ちが入学してくる可能性もあり、文化的背景の多様性について今後も考え続けていってほしい、と言いました。そして、『アフリカ NOW』106号に掲載された、前年度(2015年度)の卒業生でもある上の子が書いたエッセイを渡し、「毎日楽しく過ごしている風にも見えても、アフリカンミックスの子は大なり小なりいろんな葛藤かつどうを抱えて生きている。教育現場にいる先生はぜひ読んでください」と言って面談を終えました。

「異装」ってなんなの

言いたいことを言ってすっきりしましたが、正直なところ先生に通じたかは不明です。中学校では毎日なにかしら「事件」が起きていて、先生からしたら娘の編み込みも「文化的な背景につなげてみんなで考えよう」などと悠長な対応を取るような余裕はないのでしょうか。担任の先生から娘へのリアクションは、「お母さんは立派な考えをお持ちですね」と本気なのか揶揄やゆなのかかわからないコメントを頂戴しただけだったそうです。娘はそれ以来、決して編み込みをして学校に行こうとはしません。

さて、今年、中学3年生になった娘は、夏休み前に長いこと憧れていたストレートパーマ(以下、ストパー)をかけました。同じ学年にずっとストパーにしているジャマイカミックスのお友達がいるので、私は「校則はパーマ禁止なのに、なんでストパーは許されるのか」と、かねてから非常に疑問に感じていました。編み込みをほどかせておいて、ストパーについて「ノーコメント」は面白くない。むしろ怒ってくれたらまた話し合いに行けるから怒られないかしら、と内心楽しみにしていました。が、生徒指導の先生は「おっ!」と二度見ただけで、何も言わなかったそうです。

ちなみに娘によると、まっすぐな髪をカールさせる



東京・味の素スタジアムにて 2016年9月

のが「パーマ」。ストパーは「縮毛矯正」でパーマじゃないので禁止にならないそうです。

日本の学校では黒髪ストレートが当たり前。アフリカンヘアを編み込みにすると「異装届」を出してもNG。逆にアフリカンミックスの子がアフロヘアをストレートにすることは「異装」にすらならない。「同化しないと日本人として受け入れないぞ!」という日本政府の外国人受け入れに対する姿勢がこんなところからも垣間見え、暗い気分になります。

この話には後日談があります。ガーナ人の夫は、娘が髪をストレートにすることに大反対。夫がガーナに帰国中に「千載一遇せんざいいちぐうのチャンス」と、ストパーをかけたのですが、案の定激しく怒っていました。しかも、よりによって夫が日本に戻ってくる前日にヘアアイロンで顔にやけどをしてしまい、怒り狂った夫はヘアアイロンを隠してしまいました。いま根本がのびつつある娘は、ストパーをかけるチャンスをうかがっています。わが家の「髪型騒動」は違う局面を迎え、まだまだ続きそうです。

私のかみの毛、大好き

原田莉々文 / HARADA Lylia (小学5年生)

私はアフリカンキッズクラブのイベントに参加し始めてから、かみの毛のことを気にしなくなりました。参加する前は、日本人のみんなみたいに、さらさらしたかみの毛になりたくて、泣いたりして、ストレートパーマをかけていました。だけど、3年生の時に、アフリカンキッズクラブに行ったら、みんなミックスの子で、かみの毛がクリクリだったり、編んでいたりして、「私もあの子たちみたいになりたいな」と思い、ストレートパーマをやめました。

そしたら、お母さんが、かみ結いの教室に連れて行ってきて、かみの毛を編んでくれました。私は、そのかみの毛が入り、もうストレートパーマをかけないと思いました。

今、私はこのかみの毛が大好きです。

